



# エスディー・ジーズ トップランナーがSDGsを語る! 持続可能なまちづくりへ 第5回

HOPE おおむらみちあき  
**大村道明** 代表理事



国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みを推進していくために、政府は優れた取組を提案した全国29自治体を「SDGs未来都市」に選定。宮城県からは唯一、東松島市が選ばれました。

東松島市では、今後、各省庁の支援施策などを活用し、教育、エネルギー、生涯現役、経済循環、市民協働を中心に「持続可能なまちづくり」を目指し、本市の知名度アップにもつなげていく考えです。

ここでは、市の行財政会を牽引する<sup>けんいん</sup>トップランナーの方々に、「SDGs」に対する期待感や、持続可能なまちづくりへの思いをインタビュー。今回は、一般社団法人東松島みらいとし機構(HOPE)の大村道明代表理事に「SDGs」を語っていただきました。

■ 問 SDGs未来都市推進室  
☎ 内線1249

◎「SDGs」の求める持続可能な社会・まちとはどのようなものでしょうか?また実施していくために必要なことはなんですか?

▲ 僕が考える持続可能なまちというのは、「普通の人々が普通に」暮らせることがずっと続いていくということ。そのために必要なことは、生活するための資本を得る、お金を得る仕事、つまり雇用をどう創出するかということです。東松島市はそれが現実的にはまだ難しい段階にあると思います。当たり前のことを当たり前に行うことが難しくなっている世の中だということを入念に入れながら、持続可能なまちづくりを考える必要があるでしょう。

◎東松島市がSDGs未来都市に選定された意義や可能性、また今後どのような取り組みをしていくべきと考えますか。

▲ 意義は「国が東松島市を選んだ」ということでしょう。被災地で唯一、選ばれたことがものすごいことなんです。選定されたことへの反響は実は、内よりも外の方が大きいです。例えば首都圏の大企業など、時代の流れにより近い人々、時代の流れを察知している人々にとってSDGsはかなりホットなトピックスです。市での取り組みを民間企業の皆さんと共同でやるなどの話が出る可能性もあるのです。

◎東松島市SDGs未来都市計画では、子ども、若者、高齢者の人材育成をテーマにしています。それぞれの世代に対するメッセージをお願いします。

▲ 高齢者の皆さんが働ける場の創出が課題になっていますが、雇用のミスマッチが生じている現状です。「適材適所」の考え方で、高齢者の皆さんには社会参加する一歩前向きな姿勢を持ってほしいですね。雇用する側もそれを織り込んで、いい形が作れないか考えていく必要があります。若者の皆さんに関しては、ただやみくもにさまざまなことにチャレンジするのではなく、持続可能性を視野に入れながら、利益をしっかりと得られるような取り組みを展開してほしいです。子どもたちにはあいさつや年長者を敬う心を持ち、困った人を助けられる、すぐに音を上げないなど、人間らしい大人、人間味あふれる大人に育ててほしいですね。

インタビューの全文は、

[東松島市 SDGs](#)

[検索](#)

インタビュー